

1. 新型コロナウイルスワクチン接種の進捗状況と今後の見通しを問う。

政府の発表によれば、6月末には全国の高齢者全員が2回打てる分量のワクチンが各地に届く見込みとなり、今後は接種のスピードをいかに加速化していくかが自治体の重要な使命となる。

菅義偉首相は高齢者接種を7月末までに完了することを目指すと表明している。

このように政府が高齢者へのワクチン接種を急ぐ背景には、高齢になるほど重症化リスクが高く、死者が増える新型コロナウイルスの特徴がある。

いわゆる変異株の出現で、若年層の重症化リスクが高まっているとの指摘もあるが、高齢者の感染や発症を防ぐことが地域の医療逼迫を回避する近道であることは明白である。

なお、高齢者接種で使われる米ファイザー製ワクチンは、感染、発症、重症化いずれにも高い有効性が示されている。

よって、下記の事項について町の見解を問う。

- ①高齢者接種について集団接種、個別接種の進捗状況と課題は。
- ②集団接種会場や個別の医療機関におけるワクチンの打ち手不足の懸念は。
- ③予約のキャンセルなどによりワクチンが余った場合の有効活用策は。
- ④県西地区に県独自の大規模接種会場を設置する必要性について、町の考えは。